

【各国議会】日本関係情報

【ドイツ】独日外交関係樹立 150 周年決議

ドイツ連邦議会は、2011年1月27日、「独日外交関係樹立 150 周年決議」を採択した。ドイツと日本の正式な外交関係は、1861年1月24日に調印された日独修好通商条約から始まっており、その150周年にあたってこれまでの両国の関係の進展を確認するとともに、今後の発展を決意するものである。決議は、与党のCDU/CSU（キリスト教民主・社会同盟）及びFDP（自由民主党）並びに野党のSPD（社会民主党）及び同盟90/緑の党が共同で提出し、これら提出政党が決議に賛成し、左派党が保留した。

決議は、ドイツと日本の近代の国民国家形成過程における類似性を指摘している。イギリスやフランスと比べて遅れて始まった工業化、1871年のドイツ帝国成立と日本における廃藩置県、立憲君主制、特徴的な職業官吏制度による改革の推進等である。第2次世界大戦については、決議は、日独伊三国同盟、侵略戦争と隣国に与えた影響、1945年の無条件降伏に触れている。さらに、ドイツと日本は、人権、法治国家、平和的民主主義、市場経済といった価値観を共有し、地球規模の課題を解決し、地域紛争を安定化する義務を共有することが確認された。また、両国は核軍縮・不拡散や国連の安全保障理事会改革といった問題に取り組み、気候保全問題やアフガニスタンにおける平和構築のために協調したことで信頼を深めたことが確認された。

今後の取り組みとして、独日の青少年交流のためのコーディネーターを設置し、既存の交流プログラムを強化することが掲げられた。また、ドイツ連邦議会と日本の国会との交流強化にも努めるとされている。

150 Jahre diplomatische Beziehungen zwischen Deutschland und Japan

<<http://dipbt.bundestag.de/dip21/btd/17/045/1704545.pdf>>

【中国】日本の教科書の尖閣諸島

2011年3月31日に、外交部姜瑜報道官は、日本の文部科学省が教科書検定の結果を発表し、社会科教科書検定に合格した全7社の教科書が尖閣諸島は日本の領土としていることについて、コメントを求められ、次のように答えた。「釣魚島及び附属する島嶼（尖閣諸島の中国での呼称）は古来中国固有の領土で、中国は争う余地のない主権を有している。この事実を変えようとするいかなる言行も徒勞である。中国外交部は日本側に厳正なる申入れを行った。」

<<http://www.fmprc.gov.cn/chn/gxh/tyb/fyrbt/t811313.htm>>